

第2回 国立公文書館分科会 議事録

大臣官房政策評価官室

1. 日 時：平成14年5月16日（木） 10:00～11:20
2. 場 所：内閣府庁舎5階特別会議室
3. 出席委員：外園分科会長、長倉分科会長代理、朝倉委員、出塚委員
4. 議事次第

- (1) 国立公文書館実績評価基準について
- (2) その他

5. 議 事

外園分科会長 本日の分科会は、内閣府独立行政法人評価委員会令第6条の定足数の要件を満たしており、有効に成立しております。

本日は、独立行政法人国立公文書館の平成13年度の実績を評価するための基準につきまして、御審議をいただきたいと思っております。

お配りいたしております資料に基づきまして、事務局から説明をお願いいたします。

資料に基づき国立公文書館実績評価基準（案）等を河合政策評価官が説明

外園分科会長 ありがとうございます。御意見、御質問等ございましたら、お願いいたします。

朝倉委員 細かい話ですが、一応先行法人を参考にしたり、総務省の通則的な基準もあるわけですが、A、B、C、Dという分け方も大体共通した分け方ですか。

河合政策評価官 総務省の方からは、極力A、B、C、Dなり、1、2、3、4なりという区分をできるものは、区分をつくってやりなさいというふうな話がありまして、各府省を見ましても、A、B、C、D、Eとか、Aプラスとかいろいろ付け方はございますが、5段階にしているところもありますし、A、B、Cの3段階、場合によってはDを付けるような形にしているところもあります。

当方としては、それらもおおむね3段階なり5段階なりというところで評価しているという点を参考にしまして、我々としては4段階ぐらいが妥当かなと思って、こう設定した次第でございます。

出塚委員 大変に細かく整理、項目立てをしていただいているのですが、実績報告では細かく結果を報告書として記載することになるのですか。

河合政策評価官 実績報告書というものだけだと、それをどこに当てはめていいかと

いうところが、なかなか難しいという部分もありますので、実績報告書だけではなくて、併せてこの評価表の自己評価とともに、それぞれの項目に即した状況も書いていただこうと、それでこの評価項目それぞれについてどういう状況で業務を行ったかがわかるようにしてもらおうと思っております。

出塚委員 実績表ですね。

河合政策評価官 実績報告書とは別に、この表に個別の項目ごとの実施状況を簡単に書いてもらおうということで、落ちのないようにしたいと思っております。

出塚委員 それと同時に、係数的な財務諸表とこの項目との関連が、うまく結び付くのですか。非常に細かく出してくれるのは、それはありがたいのだけれども、同時に係数的な集計が、こんなふうには細かく出てくるのか、ちょっと心配なのですが。

河合政策評価官 財務諸表も、当然ながらその実績を表わす指標の一つでございますので、参考にしながら評定をいただくことになるかと思いますが、このすべての項目に即して財務諸表を見て、細かいミクロ的なデータまで得られるかどうかにつきましては、得られない部分もあるかと思えます。

出塚委員 そうですね。だから、実績評価というものと、係数的なところの結び付きが、うまくいくと非常によく見えてくるけれども、計画と結果との関連を見るときに、うまく見えるといいなと思って、非常に細かく整理していただくのはありがたいのだけれども、逆に見えなくなってしまうのではないかという感じがするのですけれどもね。よけいな話かもしれませんが。

外園分科会長 自己評価を、やりなさいとありますけれども、それは事前に提示されるわけですか。

河合政策評価官 はい。6月中に実績が出てまいりますので、そのときあるいはその後に自己評価表をつくっていただき、それを委員会に諮る前に見ていただこうかと思っております。

外園分科会長 委員会は能力がないから、自己評価を参考にしろということですか。

河合政策評価官 そういうわけではございませんが、実際に計画をつくって実施している当事者たる公文書館の率直な評価も、全体の実績を評価する上での一つの指標になるのではないかと考えました。

外園分科会長 それは、良しにつけ悪しきにつけ、束縛されるというか、影響力を持つのではないですか。

もう一つ、先ほど朝倉委員がおっしゃった、このA、B、C、D、Eとすれば、大体の

答えはBかCくらいではないでしょうか、おおむね順調にやっていると。先ほどおっしゃったとおり、項目によっては小さくひとつひとつありますけれども、それを総合的に評価するときにはどうするのか。

そうすると、非常に失礼な言い方をすれば、部分的には改善すべき点もあるが、おおむねうまくいっているというのが、総合評価になるのではないのでしょうか。5に分けようが3に分けようがあまり変わりはないのではないのでしょうか。

河合政策評価官 そこは主務大臣が中期目標というのを設定し、それに即して法人が中期計画をつくり、評価委員会でも御審議いただき、それに即して各年度の実施計画、事業計画をつくっているわけでございまして、本来であれば各項目に即して行われるのが普通の姿でございます。むしろ行われていないというところに、何らかの問題点なり改善点を見出すということではないかと思えます。

したがって、年度計画に即したものが、おおむねいっているところが多いとしても、それはむしろ当然と言いますか、当然に近いものであり、その際に付言される改善点なり幾つかのポイントといったものが、その後の業務運営の改善に役立っていくということが期待されるのではないかと思えます。

出塚委員 重点項目とそうでない項目とがあって、重点項目が実施していないということになれば、これは総合的な意見に影響するでしょうけれども、そうでない細かい問題について実施しなくても、全体には影響しないということになるのだらうと思うのですけれども、そういう重点的な項目かどうかという位置づけが欲しいなという感じが、みんな大事なものかどうか。総合的に見るときは、どうしてもそれが要るような気がしますけれどもね。

河合政策評価官 項目別の評価をまずいただいた上で、当然総合評価表を作成していくことになるわけですが、その上で実際に項目で積み上げが出てくると、これに載っていない他の事もあるわけですが、それを総合して判断する上で、特にこの点を重視していくと、あるいはこの点についてはこういう説明があったので、かなり評価できるというようなことを、ヒアリングしていただいた上で、また御議論いただいて決めていくということではないかと存じます。

朝倉委員 私はほかの先生と違って、自己評価は大して邪魔にならぬと思えます。先生御自身も、それほど拘束される方でもなさそうですし、逆にまた全部自己評価どおり、委員会あるいは分科会の方でやっても、これもまたみっともないということがあるから、かえって逆効果なのかもしれないですね。

だから、そういうつもりで見れば問題ないと思いますが、むしろ評価を出してきたもののデータやら何やら、これだけの項目があると、どのくらい時間が掛かるのかなと、そっちの方がやや心配ですね。1時間や2時間でできる話なのかという。

そうすると、いいかげんに自己評価を参考にして、そうすると通り過ぎてしまうみたいな。そこを何か考えてもらいたいと思います。

外園分科会長 私もお尋ねしようと思っていたのですが、この決まりでは分科会委員の協議によるとありますが、それがこういう公の場で協議するのか、それとも分科会委員のみで行うのか、どのような形態をお考えでございますか。

河合政策評価官 その場の持ち方というような意味でございますか。

外園分科会長 時間も含めて、今、朝倉委員がおっしゃったように、朝から1日掛けるのか。

河合政策評価官 まず資料を公文書館の方でつくるという作業がありまして、自己評価を含めた報告書が出てまいります。それを事前にごらんいただくと、その上で次回になると思いますが、公文書館の方で数時間になるかと思いますが、その自己評価表及び業務実績等についての説明、質疑という場を持ちたいと思っております。

さらに自己評価、あるいは実績の説明を聞いていただいた上で、先生方に一旦持ち帰っていただくような形で、可能であれば各先生の評価というものも項目ごとに記していただき、それらをまた集めて次の機会のときに評定と言いますか、意見交換をしていただくというような形で行えればと思っております。

外園分科会長 何しろ初めてのことで、御担当される方々、私たちもわからない点が多いので、御意見等を承りたいと思います。

出塚委員 この評価項目というのは、ほかの方も大体こんな形でやっているんですか。

河合政策評価官 幾つかの省のものを見ましたが、少なくとも見た省について言いますと、事業計画のこういう項目に即して付けていくというような形をしております。

外園分科会長 長倉先生、何か御不明な点はございませんか。

長倉分科会長代理 私はこの表はよくできていると思うのですが、これでやるのは大変な作業じゃないかと思うのと、このいわゆる項目別の評価表ともう一つの総合評価と別々に説明が書いてありますけれども、普通で考えますと項目別評価に基づいて総合評価が出るのが一般的ですか、何かそこがはっきりしない。と言うのはこの項目別と総合評価の方の評価項目とが、必ずしもぴったり1対1でないにせよ、連携していないようで、かなりやりにくくなるのかなという感じがするのです。

こちらの項目別評価表ですと、事業活動について、あちこちばらばらになっていますね。業務の効率化は、比較的まとまっているような感じがします。そこで、うかがいますが、総合評価の方についても、そちらで自己評価を一応提案されるわけですか。

河合政策評価官 総合評価については、特に自己評価という形ではないのですが、これらについては当然年度の業務報告の主たる内容でございますので、こういうことを行ったというようなことを、きちんと記述、報告していただくということで、公文書館としての行動が明らかになるのではないかと思います。

御質問にお答えしますと、項目別評価は法令等に即した、まさに事業年度計画の項目ごとに網羅的にやるという趣旨でございまして、これが総合評価の上でも当然ながら主要な要素にはなります。勿論、これに基づいて総合評価ができ上がっていくという部分もありますが、事業計画の詳細な項目だけでは図れないような、総合的な効率的な運営に努めたとか、このようなリーダーシップを図ったとか、このような職員のヒューマンタレントの向上に努めたとか、例示でございしますが、こういったようなことにつきましても、法人の年間の活動の実績を評価する上では、重要な要素であろうと思われるので、それらも総合してこの総合評価というのができていくということだと思います。

長倉分科会長代理 わかりました。

出塚委員 事業計画の項目というのがありますね。全体ではなくて、その項目ごとの評価の総合というか、そういうところに集約できると全体が見やすくなるような気がするのです。この項目が非常に細かく載っていますが、これはどちらかというに見込みみたいなものであって、評価項目よりは事業計画の項目ごとの評価をするための中身のよう気がするのです。

ほかがこういうふうになっているというならいいのですけれども、何となく積み上げる形が見えないような気がするのだけれども。

外園分科会長 私も、さっきの出塚委員の御発言にお教えを受けたのですが、やはり公文書館の仕事というのは、公文書を集めて保存すること、それを整理して閲覧に供すること、そういう重点項目というか、やらなければいけない仕事というのがあります。それらがどのようになっているかということを見れば、おのずから総合評価はできると思われます。

出塚委員 御苦労いただいて、ここまでつくっていただいたのに、非常にあれですが。

外園分科会長 だから、これはこのまま残しておいて、なおかつ上に大きな項目というようなものがあるのではないのでしょうか。そうすると長倉先生がおっしゃったように、各

項目で、これを見るとAなのか、Dなのか、Cなのかということがわかる。そうすれば総合評価が出来ます。それらのことをお考えいただいたらよろしいかと思えます。

出塚委員 今の話は、資料5の話ではなくて、資料6のところ、そういう要約表が入るのですかね。

外園分科会長 そうですね。

長倉分科会長代理 資料6のサマライズという考え方でいくと、総合評価表は納得できるのですが、先ほどの説明だと総合評価というのは、それとはまた別の観点、総合的な見地から見た項目別にカバーできなかったもので、中期目標から見たというような大きな見地から見たものになるのですね。ですから、私は資料5と出塚委員がおっしゃるものがワンセットになると思うのです。

そして、もう一つ外園先生がおっしゃるような、重点目標という言葉がいいかどうか分かりませんが、公文書館として最も必要な点についての勧告のあるなしだと思うのです。我々評価委員会としての意見が明確に出てくるような、もう一つの総合評価項目があってもいいんじゃないかという気がするのですが、そういうのはほかの独立行政法人ではやってないのですか。

河合政策評価官 項目別の、ミクロ的な評価とトータルな評価とのリンケージと言いますか、つながりと言いますか、そうしたところがこれだけの資料だと。

長倉分科会長代理 これはミクロということは、確かに一致した意見なのですが、こちらのマクロがサマリーとしてのマクロなのか、それとも全体としてのマクロかというところが、今ははっきりしていないのですね。総合評価の立場が、そちらの御説明と我々の理解とが、多少そごがあるかなと感じます。そこをはっきりしておいた方がやりやすいかと思えます。

河合政策評価官 サマリーでもあるし、それに加えた視点と言いますか、評価されたものがこの総合評価表になっているのですが、そこをつなぐ部分が、これだけの資料だと言わばミッシングリンクみたいになっているところがあるということですので、まさに先ほど外園分科会長から御指摘もありましたような、主要な業務についての評価、評定のようなものがあればうまくつながってくるのかなと思えますので、その辺は工夫をいたしたいと思えます。

出塚委員 先ほどのところで、財務諸表の中で、事業の項目立てがあるでしょう。それとの関連がやはり要るのだろうと思うのです。いわゆる財務諸表の項目立てがありますね。

長倉分科会長代理 これらを合わせたのですね。

出塚委員 財務諸表の項目は、どこにありますか。

石堂総務課長 財務諸表そのもの自体は、貸借対照表とか損益計算書とか、会計基準に乗った定まったフォーマットですから、そのつくり方になりますので。

田島次長 出塚委員が今おっしゃったのは、うちの予算の分類かと思うのですね。うちの予算は、保存・利用と、アジア歴史資料センターの経費と、あとは一般管理費、人件費だとかですね。その3本立てが、いわゆる項ということで分類されているという形で、前にお配りした中期計画なりに予算表が付いてございますが、そういう形の分類にはなっています。

出塚委員 項のところですね。項でも目でもいいのですけれども。

田島次長 その下の目があるのですが、経理的には予算統制はありませんから。

出塚委員 項まではいいのではないですか、項とのつながりが。

田島次長 項ですと、いわゆる旧国立公文書館と国立公文書館に併設された、アジア歴史資料センターの経費と分けて経理してございます。

出塚委員 まず総合の前に、そこのところのつながりが出ると、よく見えるのじゃないかという感じがするのですね。だから、財務の款項の項のところ、一応総合的というか、項の要約の意見が出て、最後にこの6になるのですかね。これがつながると、非常によくわかるような感じがするのですけれども。

そうですね。何かそこに一つ中間的な要約が出るという感じがするのです。

河合政策評価官 いずれにいたしましても、この項目別の評価表と総合評価表をつなげていって、総合的な評価に項目別評価がきちんと反映されている、連結されているということがわかるような、何らかの、これとこれをつなぐ評価項目と言いますか、評価指標と言いますか、それが必要という御指摘でございますね。

出塚委員 あると見やすいなという意味なのですね。必要かどうかわからないのですけれども。

外園分科会長 項目の評価はよくできていると思います。例えば公文書館にしる、アジア歴史資料センターにしる、資料の収集という面があります。これだけきちんと項目を立てて仕事をされたら、各省庁からの資料が100%入るべきものが入ってないとか、アジア歴史資料センターは、10年計画でやるというけれども、それがどうなっているかということがわかる。資料の収集・保存も、やはり公文書館の大きな仕事だと思いますから、それをどこの項目に入れるかどうかは別にしても、やはり事業活動の大きな一環だと思います。

出塚委員 そうですね。そうすると、資料収集という項目を、財務諸表に表示すべき中

身になるのだらうと思いますので。

外園分科会長 そうですね。それは必要に応じて変えなければいけないということがあ
るかもしれませんが、運搬費も含めてそのための費用だって要るわけですからね。

出塚委員 難しくなりますね。

外園分科会長 現実の問題として、省庁再編があったときに、各省庁があまり公にした
くないのは、廃棄して、残さないというようなことも耳にしています。今は価値がないと
思っているものでも、50年後、100年後には絶対必要なわけですから、その意味では国立
公文書館に頑張っていただかないといけません。それは先ほど長倉先生がおっしゃったよ
うに、これは公文書館に対する、あるいは内閣府に対する要望であります。

出塚委員 最初ですから、大変に難しいと思うのですけれども、最初から細かくやるよ
りは、ある程度大まかな方がいいのではないかという気がするのです。大きなところを逃
さないような形で要るのでしょうから、できるだけ細かい方は年々充実していくという方
向の方がいいような気がしていて、最初から細かくやってしまうとどうなのだろうとい
う感じがするのですけれども、その辺はどうなのですか。非常に細かく整理してくれたのは
いいのですけれどもね。

河合政策評価官 年度計画の項目に即してということで、こういう形でやらせていた
だきまして、それが一番その年の実態を、特定の切り口ではありますけれども、その切り口
ごとに見えてくるのかなと思ひまして、こういう形につくらせていただいたわけござい
ます。

外園分科会長 それに関係して、公文書館にお尋ねしますが、劣化が進行している歴史
公文書のうちに云々とありますが、劣化が進行している公文書というのは、点数を把握さ
れていますか、それとも今から把握されるのですか。

田島次長 12年、13年の2年にかけて証拠調査をしています。先生は御存じだと思
うのですが、元興寺文化財研究所というところで、相当な人数を掛けて調査しました。ただ、
全数調査ではないのですが、その要因別の現状把握はできております。それに対する保
存対策を、どうすべきかということで、結論的に一言で言いますと、劣化がどういう状
況かというのは把握しております。劣化が既に進行中と言いますか、これから放っておくと
劣化がどんどん進みますよというのは、今回の調査では見受けられないという、劣化が固
定してしまっている。過去に劣化が進んでいて、こういう状態ですと。ただ、それだと利
用の面で不便ですねとか、将来このまま放っておくと、いずれもう少し劣化が進むでし
ょうということがあって、何らかの対策を取れるものは、今のうち多少取った方がいいかな

という、そういう保存対策を中心に分析をさせていただきます。

外園分科会長 ありがとうございます。そこまでなさっているなら安心しました。今からこれをやるとすれば大変だなと思いましたので。

田島次長 ただ、こういう評価をされる側から見ますと、例えば酸性紙という問題がございますね。酸性紙は着実に酸性劣化していくのですが、これは止める方法というのは、今のところ技術的、科学的に確立されているわけではありませんので、もうちょっと科学の進歩というか、各研究機関でのいろんな実験結果等を踏まえないと、どういう方法で酸性化を止めるかということが決まらないのです。

ある意味では、我が方としては酸性化がどんどん進んでいるのに、手をこまねいていますねと言われれば、それまでなのですが、なかなかそこまで技術研究機関に相当な金を掛けて、調査研究をしてもらうというところまではいかない。この問題は、文化施設全部に係ることですから、一公文書館がしゃかりきになってみても始まらないというところがございます。もうちょっと全体の世の中の動き、諸外国の動きもひっくるめてですが、もうちょっと見てみないとわからないというところがございます。

外園分科会長 ほかに御意見、御質問等ございませんか。

朝倉委員 私は、項目が細か過ぎるかどうかということについては、むしろ逆に最初は細かい方がいいのじゃないかと思っているのです。その方が全体がよく見えまして、我々がこういう機関としてやる以上、全体を細かくいろんな形で把握するプロセスがなければいけなくて、2年度、3年度の方が、むしろ簡単にしてもいいぐらいなのかなという感じなのですがね。

外園分科会長 その辺も踏まえて御検討いただきたく存じます。何しろ公文書館の方も初めてだし、私たちも初めてです。ましてや財務に関しては出塚委員と公文書館の方をお願いしなければいけません。それらを整合させるというのは単純に考えただけでも大変なわけですね。

ところで、ほかに何かございますか。御意見がほぼ出そろったかと思しますので、それぞれ御検討いただき、大森委員長の御意見をお聞きした上で、御指摘を受けた点も含めまして、最終案を作成いたしたいと思っております。その点につきまして、僭越ですが、私に一任させていただきたいのですが、お願いできますでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

河合政策評価官 今後の予定について御説明させていただきます。今後必要な修正をいたしまして、御決定をいただいた評価基準を基に、公文書館に所要の資料の作成を依頼し

たいと存じます。

その上で、7月の中旬から9月ぐらいにかけて、公文書館からヒアリングを行い、更にその後、評価のための分科会を行いたいということで、2回ほど予定したいと存じます。

次回、評価のヒアリングは、それにかかる時間ですとか、資料説明等を考え、公文書館の方で午後開催したいと考えております。

外園分科会長 以上で本日の会合を閉じさせていただきます。熱心な御審議をいただきまして、ありがとうございました。

(了)